

という試みです。先ず自分の嫌なこと、嫌いなこと、不得意なことから始めます。私は中日ドラゴンズのファンですので、中日が負けた日には「中日スポーツ」を買うことにしています。中日スポーツは、ドラゴンズの記事が一杯の新聞で、勝った時には売り切れるが、負けた日は山になって残る新聞です。野球を見に出かける時も、負け試合を最後まで見ようと努めています。毎日の行動パターンも変えることができます。出勤時間を早くしたり、乗る電車の位置を変えるのも一つの方法です。読書は好きなものの一つですが、眼で読むこと、手で書くこと、声を出して読む、それを録音して聞くことまでもが一つのセットにしたいと思っています。

眼で拾い、指でなぞって耳で聞くという楽しみがより深い理解をもたらすことになります。それを通して、自分で自分の可能性を見つけることになるかもしれません。

TVの見方にしてもそうです。スポーツ放送はアナウンサーの解説が必ずいるものでもありません。時には音のない映像のみを眺めることから何かヒントを得ることになりましょう。仕事を終えて帰る時、皆さんは片付けて帰ると考えられるとしたら、明日の用意をすると考えたらずく違う視点で整理することになりましょう。

新聞はどのように読めますか。英語の News paper は Nowy 〈ナウイ〉 時間では決して最新の情報を与えてくれないでしょうし、そのときに応じた報道姿勢によって記事化されているでしょう。

一年間まとめて新聞を見たらどうでしょう。ある記事の断面を一年間ながめると、その表れ方の中、変動の仕方によってその記事の将来が見えるのかもしれないでしょう。もし三年間をまとめて読めば、もっとよく見えるかもしれません。

又、何もしないで意識的にじっとしていることも時には必要でしょう。人間はついついせっかちに知っていることは比べあいます。知識の比べあいは取るにたらないことと思えます。誰かがそのようなことでいばっているようならこう考えます。あの人も自分も「知らないこと」の多さを比べたら同じくらいだと考えます。

ここで少し新しいことが、将来の動向が見えてきます。見えないものをどのように見るかのためには、私はいくつかの仮説を持ちました。過去、現在、未来と連続性で物事は変動していくことです。私は学生時代に建物の構造体が外気温や日射熱でどのように影響を受けるかを不整形変動の形としてとらえ、フーリエ級数展開により近似させました。

私が外国で知り合った女性は one peak attained の言葉と共に二人の思い出をノートにしてくれました。二人で到着した一つの峰であったということは、私にとっては実に新鮮な感動をもたらしました。上れば、又、下って次の峰にのぼることになるだろう。そして又、次の峰とのぼり続けるだろうと思っています。連続性を円で書くと又一つの考え方ができます。円は地球が丸いので、基準とすることにそんなに抵抗はないのでしょう。

円の上を歩くとすると、何処からでも何時からでも出発できます。どちらかを前にすると後に進んでも結局前になります。前に行き詰まったら、もっと難しいことを考えずに、ずっと易しい過去にさかのぼることです。我々の会社では、夏休みに女性たちが子供を連